



フルイニングジャンボ



除草剤分類	15,14,2,2 7
-------	----------------

農林水産省登録	第23174号
有効成分	カフェンストロール（化管法 1種）・・・4.2% カルフェントラゾンエチル・・・・・・・・1.8% フルセトスルフロン・・・・・・・・0.44% ベンゾビシクロン（化管法 1種）・・・・4.0%
その他化管法該当成分	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（1種）1.8%
性状	類白色細粒 水溶性パック入り（1パック50g）
人畜毒性	普通物（毒劇物に該当しないものを指すという通称）
有効年限	3年
包装	（50g×10個）× 10袋

特長

- ✓ 4葉期までのノビエにすぐれた効果
ノビエ4葉期まで高い除草効果を示す一発処理剤です。

- ✓ すぐれた残効性
発生している雑草を枯らす力に加え、土壌処理効果によりノビエをはじめとする水田雑草の後発生を長期間抑制します。

- ✓ すぐれた拡散性
自己拡散性にすぐれた粒剤を水溶性パックで包装したジャンボ剤です。省力的な散布で、安定した除草効果を示します。

- ✓ SU抵抗性雑草にも有効
カルフェントラゾンエチルとベンゾビシクロンの作用性の異なる成分の働きにより、SU抵抗性の一年生広葉雑草やホタルイに対しても安定した除草効果を示します。

- ✓ ゆとりのある散布適期
雑草の発生に合わせて、移植水稻の移植後5日からノビエの4葉期までの幅広い時期に使用できます。

適用作物と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 多年生広葉雑草	移植後5日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	小包装（パック）10個 （500g）	1回	水田に小包装（パック）のまま投げ入れる
直播水稻	一年生雑草 マツパイ ホタルイ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで			

【各有効成分を含む農薬の総使用回数】
カフェンストロール・・・1回、カルフェントラゾンエチル・・・2回以内
フルセトスルフロン・・・2回以内、ベンゾビシクロン・・・3回以内
※本内容は2019年11月6日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項

- 使用量を購入し、できるだけ残すことなく使い切ること。
- 前処理剤との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないように適期に散布すること。
- 本剤を移植水稻に使用する場合、使用時期はノビエの4葉期までなので、時期を失しないように散布すること。なお多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、必ず適期に散布するように注意すること。
各雑草の散布適期は次の通り。
ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ・・・4葉期まで
クログワイ・・・・・・・・・・・・・・草丈10cmまで
オモダカ・・・・・・・・・・・・・・矢じり葉抽出前まで
ヒルムシロ・・・・・・・・・・・・・・発生期まで
セリ・・・・・・・・・・・・・・再生前～再生始期まで
コウキヤガラ・・・・・・・・・・・・・・発生始期まで
シズイ・・・・・・・・・・・・・・草丈3cmまで
- 雑草害をもたらす栽培目的以外のイネの防除に使用する場合は、発生前～発生始期（鞘葉抽出期）に有効なので、散布適期を失しないように散布すること。また、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生期間が長く生育段階によって効果にフレがあるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。また、オモダカ、クログワイは有効な後処理剤との組み合わせで連年施用することによりさらに効果が向上する。
- 本剤を直播水稻に使用する場合、使用時期はノビエの4葉期までなので、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、必ず適期に散布するように注意すること。
各雑草の散布適期は次の通り。
ホタルイ・・・・4葉期まで
ウリカワ・・・・3葉期まで
ヒルムシロ・・・・発生期まで
セリ・・・・・・再生前～再生始期まで
- 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- 散布に当たっては、水の出入りを止めて5～6cmの湛水深にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（3～5cm）を保ち、田面を露出させないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ・ 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm／日以上）
 - ・ 軟弱な苗を移植した水田
 - ・ 極端な浅植えの水田及び浮き苗の多い水田
 - ・ 散布後低温傾向が続くことで稲の生育が著しく停滞すると予想される場合
- 稲の根が露出する条件では薬害が生じるおそれがあるので使用しないこと。
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので、使用をさけること。
- 本剤は小包装（パック）のまま10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- 藻類・表層はく離などの浮遊物が多い条件下では、拡散が不十分となり部分的な効果不足や薬害が生じることがあるので、使用をさけること。
- パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意すること。
- 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。
- 本剤を散布した水田の田面水を他の作物に灌水しないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項

- 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、濡れた手で触らないこと。
- 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
 - ・ 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
 - ・ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

魚毒性等

- ・ 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- ・ 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- ・ 散布後は水管理に注意すること。
- ・ 空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

保管

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

製剤は吸湿性があるので、湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると包装材フィルムが劣化するおそれがあるので、下積みにならないようにすること。

備考

「フルイニング®」は石原産業（株）の登録商標。「ジャンボ®」は（公財）日本植物調節剤研究協会の登録商標。